

## さようなら、マックブック

第18期 OG 芝田 朱莉

大学の入学祝いに親に買ってもらったマックブックが、寿命を迎えてしまいました。電源を入れてもりんごマークから一向に遷移しません。小野ゼミ活動の全てがこのパソコンと共にあったことを考えると、とても寂しい気持ちになります。そんなわけで、このエッセイは、スマホでベタ打ちした文章を現役生にラインで送らせていただき、誠に恐縮ながら形式を整えてもらうことで、かろうじて形をなしています。残念ながら、パソコンを使う機会が1年に一度、このOB・OG会誌への寄稿だけであることに鑑みると、新しいパソコンを迎え入れる機会に恵まれることは、今後ないでしょうか。金融業界の片隅に身を置いているからか、周りの人間全てがお金に関する知識に富んでおり、自然と私自身も物欲を満たすことよりも、お金を貯蓄することに喜びを感じてしまいます。パソコン、高いよね。

以降、つらつらと、近況をお知らせします。最近の私は、1年目の頃からの早寝をまだ止められずにいます。平日であっても毎日20時にはベッドに横になることに全力を尽くしています。2年間ずっと趣味<睡眠の優先順位が崩れなかったのが、今後もずっとこのままなのかなあ、と漠然と思っています。寝過ぎは逆に健康リスクを高めると聞くので、どうにかしたいです。同期の井上が地方から東京勤務になり、卒業後初めて再会しました。久しぶりにみんなと会えて嬉しかったです。周も、早く気軽に飲みに行けるように戻ってきてね。私自身も、来年は勤務地の変更がありそうです。本社異動になれば、念願の彼氏との同棲が始まるので、毎日祈ってます。もし同棲できたら、彼氏のサーフェイスを借りて、来年のエッセイはしっかり書いてきます。来年もこんな感じだったら、察してください。



ただのまな板と化したマックブック



伊香保温泉（著者は左）